

平成29年12月7日

学校だより 特集号

めざす子ども像

《明るい子 考える子 頑張る子》

志井の子

北九州市立志井小学校

〒802-0985 小倉南区大字志井280番

TEL 093-962-0314

校長 吉村 恵子

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

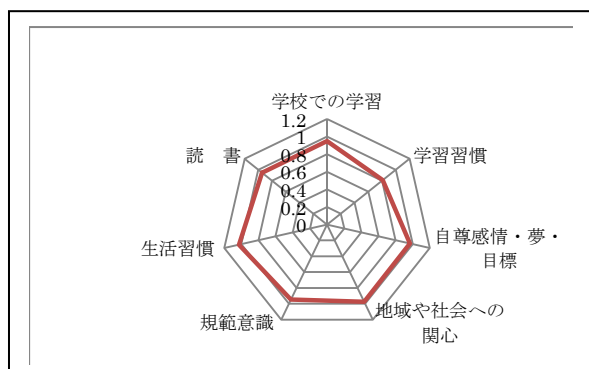
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、書くこと、読むことの正答率は高かった。 言語についての知識・理解・技能、特に漢字を正確に書くことに課題がある。 目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題の正答率が高かった。 	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、読むことの正答率は高かった。 文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書く問題に課題がある。 文章を読み、具体的な叙述をもとに理由を明確にして自分の考えをまとめる問題の正答率が高かった。 目的に応じ、必要な内容を整理して書く問題の正答率が低かった。 	下回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、数量や図形についての技能の問題の正答率は高かった。 計算問題は正答率が高いが、数量関係を数直線に表すことや、底辺と面積の関係などの、内容の理解に課題がある。 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題の正答率が高かった。 資料から二次元表の合計欄に入れる数を求める問題の無回答率が高かった。 	下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率と同程度だったが、量と測定、図形、数量関係の各領域の問題の正答率が高かった。 見つけたきまりや考えを記述する問題に課題がある。 基準量と割合をもとに比較量を判断する問題の正答率が高かった。 目的に適したグラフを選ぶ問題の正答率が低かった。 	同程度

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・学力向上に向けた全校的な取組により、授業における「めあて」「まとめ」の確実な実施が定着している。「振り返り」については定着に向け、より確実な実施が必要である。
- ・学校の授業以外の勉強時間、家で自分で計画を立てて勉強している割合が少ない。家庭とも連携し、家庭学習の工夫改善を行う必要がある。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

授業において、自分の考えを文章で表現する振り返りの時間を確実に設定し、内容の質を高める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

生活振り返りカード、家庭学習チャレンジハンドブックを活用し、生活習慣や学習習慣の見直しを図る。